

決算
審査
認定

決算審査での議論をもとに 令和3年度の予算要望に つなげます

8月27日、議長、監査委員および前監査委員を除く18名で構成される決算特別委員会が設置されました。9月1日から3日にわたり、審査内容を常任委員会の所管に振り分け、分科会方式にて決算を審査しました。各分科会では、第7次総合計画後期計画の進捗状況の検証も含めた質疑が行われました。決算審査を通じ、令和3年度の予算編成に向け、事業の遂行に必要な予算を獲得するため、各分科会からとくに必要な事業についてテーマを設け、9月11日の決算特別委員会において議員間討議を行いました。この議員間討議での議論をもとに、今後、令和3年度の予算編成に向けての要望書を市へ提出します。

令和元年度の決算概要

令和元年度の一般会計における歳入決算額は430億8,145万円、歳出決算額は394億2,933万円となり、いずれも過去最高額となりました。歳入歳出差引額は、36億5,212万円となり、このうち、翌年度へ繰り越す財源が5億6,812万円、実質収支は30億8,400万円となりました。一般会計歳入歳出決算で認定された事業費のうち、一部を紹介します。

(仮称)小泉交流センター建設事業費
3億6,662万円



小泉交流センターの建設に要した経費

三の倉センター大規模整備費
3億9,417万円



長寿命化工事、浴槽炉などの設備の更新などに要した経費

駅南市街地再整備事業費
11億7,730万円



駅南地区の市街地再開発整備に要した経費

公園維持管理費
1億986万円



都市公園などの維持管理に要した経費

高規格救急車購入費(繰越明許費)
2,934万円



北消防署の高規格救急車の更新配備に要した経費

小学校空調機整備事業費(繰越明許費)
7億5,466万円
中学校空調機整備事業費(繰越明許費)
5億3,310万円



小中学校の普通教室への空調機設置に要した経費

第1分科会(総務常任委員会所管)

分科会での質疑

問 ふるさと応援寄附金の返礼品の中に、他市にいる子どもが本市にいる親の見守りサービスが受けられるメニューがあるが、反応はどうかであったか。また、返礼品のメニューには陶磁器やお菓子のほかに飛騨牛があるが、積極的に競争に勝つ方針に転換されたのか。

答 新型コロナウイルス感染症の影響のためか、返礼品のトップテンには見守りサービスは入っており、酒などが入っている。3割以下の返礼割合を少し引き上げたが、国が制度を厳格化したため、若干動きが取りづらい。積極的に取り組んでいるが、多治見市は商社が多いため、地場産品に制限がかかると商品展開が難しく、なかなか効果が表れにくい状況である。返礼品のメニューについては、事業者から申請を出していただき、審査を経て出品している。庁内の連携もあり、産業観光課から話を聞き、事業者からの申請が地場産品であるかの確認が取れば、お米やジャムなども出品できる。

議員間討議でのテーマ

「ふるさと応援寄附金の推進と魅力的な返礼品の開拓について」

議員間討議でのテーマ

「ふるさと応援寄附金の推進と魅力的な返礼品の開拓について」

第2分科会(経済建設常任委員会所管)

分科会での質疑

問 地域あいのりタクシーについては、導入団体は増えているが、決算額は前年度より下がっている。利用しにくいということはないか。また、持ち資金の少ない団体に対する配慮はどうか。

答 各団体を利用の仕方を決めている。市は、地域の判断も尊重しなければいけないと考えている。利用のしくみは、団体からタクシー事業者に支払いをしてから、市が補助額を団体に支払っているため、一旦負担するための持ち資金がないという声を聞いている。代理受領のような方法で、最初に市がタクシー事業者へ補助額を支払うことができないか検討している。

問 令和元年度にききょうバス郊外線からバスタクへ変更しているが、変更後の状況と効果はどのようか。

答 バスタクは、郊外線の8ルートのうち、路線バス等に乗り換えが困難な3ルートを代替で運行しているものであり、令和元年度の利用者は3ルートの合計で330人であった。同じ人が利用しており、代替手段になっていると思われる。

議員間討議でのテーマ

「ネットワーク型コンパクトシティにおけるネットワーク型コンパクトシティにおける公共交通政策について」



「バスタク」のマーク(一般のタクシーに付している)

「議員間討議でのテーマ」

第3分科会(厚生環境教育常任委員会所管)

分科会での質疑

問 奨学金給付・給付、貸与事業費、奨学金積立金、高校入学準備金給付事業費の状況はどのようか。

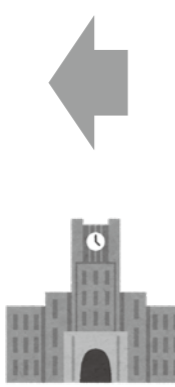
答 事業の財源は、奨学金等である。平成30年度から、大学生向けの貸付事業を給付事業に切り替えている。令和元年度の貸付事業については、大学4年生3名、大学3年生4名に対して貸し付けを行っており、この貸付事業は、現在、貸し付けを行っている大学生が卒業する令和2年度末に終了する予定である。先に貸与の制度で給付を受けている大学生は、新しい給付制度をさかのぼって適用されることはない。

問 奨学金を使うことに加え、一般財源を用いる考えはあるか。

答 現在、おもに基金等を使っているが、給付事業を継続すれば、基金等ははじかれ底をつくことになる。令和元年度は、申請人数も非常に多かったため、今後、支給人数等も含めて検討する。

議員間討議でのテーマ

「奨学金と各奨学金事業について」



「議員間討議でのテーマ」